

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(葵館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	令和4年10月7日	評価結果市町村受理日	令和4年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物です。ご利用者が自由にのびのびと暮らしていただけるよう、玄関は夜間帯を除き常に開錠されています。コロナ禍により敷地内の畑を利用した地域交流は難しくなりましたが、芋掘りや焼き芋を楽しむ等、立地環境の利点を活かした取り組みを続けています。また、敷地内で収穫した梅や無花果でおやつ作りをしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられます。前年度からは自立支援介護の研修に職員が順次参加し、水分摂取量や運動量の見直し、介助方法の見直しを行っています。自然排便を促す等、その方の生活がより自立し充実したものとなるよう、新たな取り組みを開始しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎月発行の「花みずき」には、地域の桜まつりで花のつぼみを初めてかのようにそっと握ってみる様子や、敷地内の地蔵を拝む姿、クラフトでつくった鯉のぼりのうろこが我ながら見事だと悦んでいる表情、男性は菜園の茄子を大事そうに収穫し、女性陣は節句のちらし寿司を「私桶を持つ人」「私混ぜる人」と協働で調理してetc.と、衛生管理を計らいつつもコロナ禍とは無縁で穏やかな暮らしが此処にはあります。中には重度化に進みつつある利用者もいますが、昨年度より「水分・排泄・運動へと重点的に取組むことで、認知症の症状を維持・改善へと促す自立支援」を進めており、夜間の便失禁が減るなどの効果も現れ、職員の励みにもなっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に行動指針をクレドとして全職員へ配布し、入職時に研修を行っている。会議前のクレドの唱和、クレドの内容を毎月目標にかかげ、理念の共有と理解を深めている。また、人事考課制度の行動評価表はクレドの内容が中心となっており、職員一人ひとりの実践に繋げている。	法人理念の実現に向け、クレド・研修・会議前の唱和・行動評価表の考課などのシステムを堅固に敷いています。職員は「理念を実現しよう」との強い思いはないものの、これらの仕組みにより自然に実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により今年度も小中学生や老人会との定期交流は中止となってしまった。地域包括主催の介護教室へ利用者と一緒に参加をする予定があるが、日程が延期となり現在調整中である。	人との交流はないものの桜まつりの時期に花見にでたり、日本茶の購入先は地域の店舗から選んでいます。また地域包括支援センター主催の介護教室では利用者が当事者役となって演技する場が予定されており、実演が楽しみです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や職場体験の受け入れはコロナ禍により現在実施できていないが、医師会からの依頼で視察の対応等させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により引き続き書面開催を継続している。利用者の入退去・稼働率を含めた定期資料他、苦情や事故の件数、職員の入退職も含め報告を行っている。新たに取り組み始めた自立支援介護の資料を添付したり、施設内で実施した研修内容を紹介したりもしている。	運営推進会議はコロナ対策で書面開催となっています。以前から介護度や年齢に留まらず在在年数など広範囲にわたるデータを提示しており、通信の写真とともにコロナ禍における情報共有に大いに役立っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、生活保護者の受け入れのため必要に応じて社会福祉課と連携をとっている。また、地域包括支援センターと連携しながら、利用者家族の経過を見守る等、情報共有を行っている。	運営推進会議は参会ではないことから、市役所からは事業所の取組みへのねぎらいの言葉や、面会再開への御礼などが届いています。また県からの抗原検査キッドは、「職員の家族が感染した」「利用者が熱発した」などに重宝に活用されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で委員会を設置している。法人による入職時の研修他、事業所内ではリモート研修の実施とケア会議での伝達研修を行っている。議事録に不適切ケアや身体拘束の事例を掲載し、意識向上に努めている。各ユニットで不適切ケアはなかったかの見直しを行い、改善に取り組んでいる。	身体的拘束適正化検討委員会の議事録では、チェックリストを実施しているにもかかわらず、不適切な言葉への自覚がなかった職員など、具体的な事柄が即時的に解決に向かっていないことが確認でき、安心な体制にあることが受けとめられます。	職員に小さな課題もあるようです。研修や会議にロールプレイングを導入し、意識変容を試みることも検討ください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、事業所内でリモート研修を行ったり、個人ワークで虐待事例について調べる等、虐待防止への意識を共有し、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。地域包括支援センターや家族と相談し、必要性のある方の申立ての手伝いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更になる際には、その都度案内を送付し、理解と必要に応じた同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により、家族の来館制限を継続しているが、利用者の状態の変化やケアプラン更新時には必ず電話連絡で説明を行い、意見や要望を聞くことができている。連絡方法や時間帯等も家族の要望に合わせて可能な限り対応している。	日々の電話やeメールなどのほか、お正月に向けて福笑いなどを作成するとき、家族宛ての年賀状も利用者とともにしたためており、親交を温めています。家族アンケートには評価や感謝とともに意見、苦言も挙がっていて、「我がグループホーム」との家族のエールが伝わります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はリーダー会議を通じて現場の把握に努めると共に、アミーバ会議や施設連絡会議で代表者や他部署へ意見や提案を伝える機会を設けている。事業所運営についての部門会議を定期的で開催し、月間目標を職員主体で設定する等、職員が提案する場を定期的に設けている	アミーバ経営(全社員が経営に参画する仕組み)では経費削減や接遇について一事業所、一職員が自覚をもって取組めるよう図られており、ユニット会議、部門会議、アミーバ会議と情報が上に吸い上げられる仕組みが敷かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課・面談を実施し、次年度の昇給率に反映されている。年1回の職員意向調査を実施する事で職場環境・条件の整備に努めている。人事考課の面談内容も、各職員が目標を持って業務に取り組める内容となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で新規採用職員研修が実施されており、入職後半年を目途にフォローアップ研修も行っている。既存職員へもリモート研修受けられるよう整備されている。人事考課面談の際に、個々にあった外部研修をすすめたり、法人内の研修参加をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により法人外同業者の訪問の機会はないが、書面で運営推進会議資料送付を継続している。法人内の研修参加により、他事業所と意見交換を行いながら自立支援介護をすすめるなど、サービスの質向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が遠方在住で事前面談ができないケースもあったが、入所前には本人との面談を実施している。本人への聞き取りが困難な場合には、家族や利用中の介護事業所から詳しく聞き取りを行い、本人の様子や言動に気を配りながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込の段階での状況確認他、入居契約の前には再度家族に来館してもらい、近況の確認を行っている。入居後の生活についての不安や要望を含め、対応可能な部分や対応が難しい部分を説明しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう、話し合いの場を設けている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談したりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に家事を行ったり、草取りをしたりと、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。何かをして下さった後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会制限を設けているが、窓越し面会やテレビ電話での対応を行っている。必要に応じて電話やFAX、メール連絡で最近の様子や健康状態を報告している。連絡を密に行う事で、相談しやすい環境づくりを心がけ、共に利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により以前のように外出や外泊を自由にしていただけないが、暑中見舞いや年賀状のやりとりを継続している。キーパーソン以外からの電話の取り次ぎや面会対応、手紙のやりとりの支援も行っている。	ほうとうでは山梨、八つ橋では京都と地方の産物には「行ったことあるよ」と反応があり、回想に結ばれるケースもみられます。また90歳になる女性はアルコールが大好きで、他に1名男性で嗜む人と向かい合わせで晩酌という日もあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染の利用者同士がゆっくりと話せるよう、ベンチやソファの配置をかえ、心置きなく過ごせるようにしている。また、工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、経過確認とケア方法の伝達を必要に応じて随時行っている。家族から相談のあった際にも都度対応し、退去時の清算明細を送付する際には、お礼の言葉を一筆添えて送付するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動から利用者が希望している生活や要望を把握するように努めている。利用者の希望に応じた手作りの食事を用意したり、家族と相談して嗜好品を用意したりしている。また、本人の希望を介護計画に反映させている。	花火大会では瓶ラムネで「懐かしいよ」の声を引き出すなど常に工夫を試みていますが、居場所づくりにも余念なく廊下に3基、玄関または外廊下に4基のベンチ、リビングに2基のソファを置き、並んで語り合うスペースが豊富にあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャー、入居前に利用していたサービス事業所への聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし・生活環境の把握に努めている。可能であれば自宅へ出向き、居住環境を把握したり、入居前の日記や介護記録、家族のメモ等を提供していただき、経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日常のケア記録、職員間の申し送りや情報交換により、常に状況把握に努めている。利用者ごとの申し送りファイルは生活面・医療面と内容によって色分けを行い、経過も含め把握しやすいよう工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話やモニタリングの際に本人の意向を確認している。ケア会議で課題を話し合い、必要に応じて医療機関や家族と相談をしたうえで、その内容を介護計画に反映させている。	改正で1ユニット1名の計画作成担当者の配置が全体で1名でよいということになりましたが、事業所ではこのままの体制で丁寧に取り組む予定です。また現在家族会もできませんが、介護計画書の更新では必ず家族意見を仰いでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者について新たに気づいた事や、行動の変化を要連絡事項として記録し、共有しやすいよう個別でファイリングしている。また、課題をケア会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況や希望に応じて入退去の引っ越しの手伝いをしたり、家族が遠方な場合には地域包括支援センターと連携して区役所や金融機関の手続き等、可能な範囲で柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ボランティアのよる教室や地域の老人会・保育園と交流しながらの畑仕事を楽しみとなっているが、コロナ禍により現在実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内診療所による月2回の内科任診以外にも、必要時に医師へ連絡相談し、指示を受け対応している。診療所には皮膚科もあり、適切な医療を受けやすい。利用者や家族の希望に合わせ、法人外の医療も受けられるよう支援しており、必要に応じて紹介状を用意する等、連携をとっている。	法人内、しかも地続きの敷地のなかに診療所があります。月2回の訪問診療には看護師を帯同して丁寧診てもらっているほか、何かあれば24時間オンコールのほか、内科だけでなく皮膚科があることにも助けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。宅直看護師以外にも、法人内診療所の看護師とも連携をとっており、医師への情報共有や支援が受けやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況などを詳しく伝えている。立ち会えない場合は、電話連絡で状況確認と情報提供を行い、早期退院に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で「重度化・看取り介護に関する指針」を提示し、現時点での意向の確認を行っている。身体の状態変化に応じて早い段階から医師や家族と話し合い、終末期に入る段階で再度意向確認を行い、付き添える環境を備えたり、希望に沿った介護計画を作り、本人が穏やかに最期まで過ごす事が	家族、本人の希望があれば看取りをおこなうことを契約時に家族に説明しています。終末期からお見送りにおける退去ばかりでなく、法人内の他施設への転居と選択肢もあり、家族には体調変化など折りに触れて意向を確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送等、速やかに対応できるよう、利用者情報を月1回更新し、法人内診療所と共有している。急変が予測される利用者については、事前に医師から指示をもらい、職員間で共有し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施しており、スプリンクラーや自動火災通報装置の説明も行っている。他法人と協定を結ぶ等、法人全体として大規模災害に備えている。	広大な敷地の中に特別養護老人ホーム、ケアハウス、企業内保育所、小規模多機能型居宅支援等多様な施設があり、有事で協力し合えるよう法人としてBCPを整備しています。また新採者には初日に消火器や通報装置の位置を指導しています。	次の3点を期待します。①災害用伝言ダイヤルの実施 ②風水害の訓練 ③避難誘導、連絡網、水消火器などメニュー毎の経験チェック表の作成

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に注意している。また、何かをしてくださった際には必ずお礼を伝えるよう心がけている。利用者個々に合わせて同性介助をしたり、本人が一人で着替えがしやすいようセッティングを工夫したりしている。	自分でできなくなった喪失感が拭えなかったり、またできなくても「自分でやりたい」気概のある人には、着替えを順番にカゴを替えておいたり、スナップボタンに小さなリボンを目印につけるなどして、本人が「やった」有用感につなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中でも本人の希望を聞くことができるため、利用者との会話を大切にしている。本人の思いや希望を表現しやすいよう傾聴に努め、認知症が進行した方や失語症の方には選択肢を出す等、表現しやすい対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のレベルや嗜好に合わせたレクリエーションを提供したり、やりたい内容や希望に応じて施設の日課や時間をずらす等、柔軟に対応している。屋外で過ごしたい方には所在確認や見守りを行い、危険のない範囲で屋外で過ごしていただいたり、本人が納得できるまで職員も草取りに付き添う等]		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容出張サービスでは、本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人・家族の希望で日常的に化粧水・乳液を使用したり、おしゃれ好きな方には誕生日に装飾品をプレゼントしたりと、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあったかたちで食事の準備や片付けに参加していただいている。利用者の希望に合わせてパン食や洋食、麺類を提供したり、バーベキューを楽しんでいただいている。敷地内の野菜や果物の収穫から調理までを利用者と一緒に楽しむ事もある。	常には外部の業者から届く献立ですが、ユニット全員がパン好きで朝食は差し替えるユニットもあります。「ラーメン食べたい」や得意な利用者が腕を奮ういなり寿司、ワイワイガヤガヤが楽しいバーベキューなど柔軟に利用者の要望に応じています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業務委託元の管理栄養士が考え、バランス良い食事を提供している。日々の食事・水分摂取量・様子を確認し、状態の変化に応じて食形態を見直している。食が進まない方には、口当たりの良い物やお好きな物を家族と相談・協力して用意し、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士の来館があり、口腔内のチェックやブラッシング指導を受けている。治療が必要な場合でも、可能な限り訪問診療で対応している。毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいた後、職員が義歯や口腔内の仕上げ磨きを行っている。歯間ブラシをすすめたりと、本人の状態		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で最終排泄時間を確認しながらトイレへお誘いする等、時間に固執せず、個々に合わせた対応を行っている。前年度より自立支援介護を実践しており、自然排便を促す取り組みや、紙パンツから布パンツへ変更する等の個々に合わせた支援を行っている。	立ち上がりの訓練も兼ねているとの考えもあり、またさまざまな感覚・意識、そして動作が複雑に絡み合って成り立つ排泄行動は生活そのもののリハビリとして大切に考えており、立位が保てれば2人介助でも対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立支援介護の一環として、水分摂取と歩行機会を確保し、チェック表に記録しながら自然排便に向けての取り組みを行っている。乳製品や果物、食物繊維を摂っていただいたりと、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じて、入浴日や時間を変更したり、同性介助による対応を行っている。好みのシャンプーや洗顔を使用していただき、できる限り希望に添えるよう支援している。入浴剤を数種類用意して本人に選んでいただいたり、入浴嫌いな方には散歩等で気分転換してからお誘いする等、入浴が楽しめる個々の生活習慣や、体調・気分によって休息・就寝していただいている。室温や照明の調整他、アロマスプレーや芳香剤を活用したり、希望に応じて湯たんぽを用意したりと、気持ちよく眠れるよう支援している。夜間不眠の方には外気浴や日光浴を行う等、日中の活動量増加に努め、自然な睡眠の促しに努む。入浴時には薬剤師が付き添い、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には、理由を必ず記録に残し、職員間で共有している。経過を確認後、医師への報告を行っている。	浴室改修でタイル貼りが撤収され、冷えないことは「楽しむ」との観点で大いなる前進です。他にも祝日や誕生日に沢山の小分けパッケージの中から好みの浴剤を選んでもらったり、庭で育てたペパーミントで変わり湯にも挑戦しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	中庭で野菜等を育て、役割として水やりをしていただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。裁縫や工作等、一人ひとりの力を活かした活動を行ったり、タブレットで趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	中庭で野菜等を育て、役割として水やりをしていただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。裁縫や工作等、一人ひとりの力を活かした活動を行ったり、タブレットで趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭で野菜等を育て、役割として水やりをしていただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。裁縫や工作等、一人ひとりの力を活かした活動を行ったり、タブレットで趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により商業施設や遠方への外出はできていないが、浜名湖へドライブへ出かけたり、バラ園や桜見物に出かけたりと、可能な範囲で車で出かけている。法人内の敷地が広いため、敷地内の散歩は日常的に行えている。	桜まつりや、バラ園などのドライブには人けのないことを確認のうえ、少しずつウイズコロナを進めています。調査訪問時にも高齢者団体の訪問かな？と見紛う程足腰がしっかりした泉館の面々が、広い敷地を利用して楽しそうに散歩していました。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、現金を持っていないと不安な方には、家族に了承を得てお財布を持っていただいている。お金を使いたいという思いもあり、敷地内の自動販売機で飲み物を買いたいと希望があった際には都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・書中見舞いの発送他、キーパーソン以外からの手紙のやり取りを支援したり、電話の取り次ぎをしている。希望に応じて固定電話や携帯電話を持参していただいております。好きな時に電話ができるよう支援している。コロナ禍で開始したテレビ電話での面会も継続しており、遠方で来館できない家族に喜ん		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回リビングの室温・湿度を確認し、空調や外気の取り込み等調整している。日々の換気をしっかりと行い、不快な臭いや感染予防に繋がっている。前年度、今年度と3ユニットの浴室を全面改修し、足元の冷えが改善されている。	菜園の収穫のほか、スイカ割りや七夕の短冊づくりやフラワーアレンジメントなど、季節に親しむモノ、コトを随時提供、廊下の写真ボードやリビングの装飾も季節で掛けかえています。また念願だった浴室のリフォームは昨年度完了しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう、日頃から配慮している。廊下・玄関・玄関先にベンチやソファを設置しており、おもしろい場所で過ごしやすいよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具はできるだけ使い慣れた馴染の物を持参していただいている。また、家族に相談してアルバム写真や好みの室内装飾品等を置いていただき、自宅に近い居住空間をつくるよう努めている。ベッドを使用していなかった方には、入所後も床に布団を敷いて休んでもいただいている。	携帯電話は1名ですが、テレビを居室に置く人は16名と多数です。ただし、リビングで皆で過ごすのがいいらしく、「男はつらいよ フーテンの寅」といった映画鑑賞会が利用者のリクエストで開催されるユニットもあり、職員もDVD集めに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できる環境であるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を見ながら必要な時に手助けにうかがえる環境となっている。トイレの広さも一般的なものと、車椅子対応のものもあり、本人のレベルに応じて使い分けてい		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(泉館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	令和4年10月7日	評価結果市町村受理日	令和4年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物です。ご利用者が自由にのびのびと暮らしていただけるよう、玄関は夜間帯を除き常に開錠されています。コロナ禍により敷地内の畑を利用した地域交流は難しくなりましたが、芋掘りや焼き芋を楽しむ等、立地環境の利点を活かした取り組みを続けています。また、敷地内で収穫した梅や無花果でおやつ作りをしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられます。前年度からは自立支援介護の研修に職員が順次参加し、水分摂取量や運動量の見直し、介助方法の見直しを行っています。自然排便を促す等、その方の生活がより自立し充実したものとなるよう、新たな取り組みを開始しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎月発行の「花みずき」には、地域の桜まつりで花のつぼみを初めてかのようにそっと握ってみる様子や、敷地内の地蔵を拝む姿、クラフトでつくった鯉のぼりのうろこが我ながら見事だと悦んでいる表情、男性は菜園の茄子を大事そうに収穫し、女性陣は節句のちらし寿司を「私桶を持つ人」「私混ぜる人」と協働で調理してetc.と、衛生管理を計らいつつもコロナ禍とは無縁で穏やかな暮らしが此処にはあります。中には重度化に進みつつある利用者もいますが、昨年度より「水分・排泄・運動へと重点的に取組むことで、認知症の症状を維持・改善へと促す自立支援」を進めており、夜間の便失禁が減るなどの効果も現れ、職員の励みにもなっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に行動指針をクレドとして全職員へ配布し、入職時に研修を行っている。会議前のクレドの唱和と、クレドの内容を毎月目標にかかげ、理念の共有と理解を深めている。また、人事考課制度の行動評価表はクレドの内容が中心となっており、職員一人ひとりの実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により今年度も小中学生や老人会との定期交流は中止となってしまった。地域包括主催の介護教室へ利用者と一緒に参加をする予定があるが、日程が延期となり現在調整中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や職場体験の受け入れはコロナ禍により現在実施できていないが、医師会からの依頼で視察の対応等させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により引き続き書面開催を継続している。利用者の入退去・稼働率を含めた定期資料他、苦情や事故の件数、職員の入退職も含め報告を行っている。新たに取り組み始めた自立支援介護の資料を添付したり、施設内で実施した研修内容を紹介したりもしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、生活保護者の受け入れのため必要に応じて社会福祉課と連携をとっている。また、地域包括支援センターと連携しながら、利用者家族の経過を見守る等、情報共有を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で委員会を設置している。法人による入職時の研修他、事業所内ではリモート研修の実施とケア会議での伝達研修を行っている。議事録に不適切ケアや身体拘束の事例を掲載し、意識向上に努めている。各ユニットで不適切ケアはなかったかの見直しを行い、改善に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、事業所内でリモート研修を行ったり、個人ワークで虐待事例について調べる等、虐待防止への意識を共有し、防止に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。地域包括支援センターや家族と相談し、必要性のある方の申立ての手伝いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更になる際には、その都度案内を送付し、理解と必要に応じた同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により、家族の来館制限を継続しているが、利用者の状態の変化やケアプラン更新時には必ず電話連絡で説明を行い、意見や要望を聞くことができている。連絡方法や時間帯等も家族の要望に合わせて可能な限り対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はリーダー会議を通じて現場の把握に努めると共に、アマーバ会議や施設連絡会議で代表者や他部署へ意見や提案を伝える機会を設けている。事業所運営についての部門会議を定期的で開催し、月間目標を職員主体で設定する等、職員が提案する場を定期的に設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課・面談を実施し、次年度の昇給率に反映されている。年1回の職員意向調査を実施する事で職場環境・条件の整備に努めている。人事考課の面談内容も、各職員が目標を持って業務に取り組める内容となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で新規採用職員研修が実施されており、入職後半年を目途にフォローアップ研修も行っている。既存職員へもリモート研修受けられるよう整備されている。人事考課面談の際に、個々にあった外部研修をすすめたり、法人内の研修参加をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により法人外同業者の訪問の機会はないが、書面で運営推進会議資料送付を継続している。法人内の研修参加により、他事業所と意見交換を行いながら自立支援介護をすすめるなど、サービスの質向上に取り組んでいる。		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が遠方在住で事前面談ができないケースもあったが、入所前には本人との面談を実施している。本人への聞き取りが困難な場合には、家族や利用中の介護事業所から詳しく聞き取りを行い、本人の様子や言動に気を配りながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込の段階での状況確認他、入居契約の前には再度家族に来館してもらい、近況の確認を行っている。入居後の生活についての不安や要望を含め、対応可能な部分や対応が難しい部分を説明しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう、話し合いの場を設けている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談したりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に家事を行ったり、草取りをしたりと、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。何かをして下さった後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会制限を設けているが、窓越し面会やテレビ電話での対応を行っている。必要に応じて電話やFAX、メール連絡で最近の様子や健康状態を報告している。連絡を密に行う事で、相談しやすい環境づくりを心がけ、共に利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により以前のように外出や外泊を自由にしていただけないが、暑中見舞いや年賀状のやりとりを継続している。キーパーソン以外からの電話の取り次ぎや面会対応、手紙のやりとりの支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染の利用者同士がゆっくりと話せるよう、ベンチやソファの配置をかえ、心置きなく過ごせるようにしている。また、工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、経過確認とケア方法の伝達を必要に応じて随時行っている。家族から相談のあった際にも都度対応し、退去時の清算明細を送付する際には、お礼の言葉を一筆添えて送付するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動から利用者が希望している生活や要望を把握するように努めている。利用者の希望に応じた手作りの食事を用意したり、家族と相談して嗜好品を用意したりしている。また、本人の希望を介護計画に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャー、入居前に利用していたサービス事業所への聞き取りを行い、生活歴や馴染の暮らし・生活環境の把握に努めている。可能であれば自宅へ出向き、居住環境を把握したり、入居前の日記や介護記録、家族のメモ等を提供していただき、経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日常のケア記録、職員間の申し送りや情報交換により、常に状況把握に努めている。利用者ごとの申し送りファイルは生活面・医療面と内容によって色分けを行い、経過も含め把握しやすいよう工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話やモニタリングの際に本人の意向を確認している。ケア会議で課題を話し合い、必要に応じて医療機関や家族と相談をしたうえで、その内容を介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者について新たに気づいた事や、行動の変化を要連絡事項として記録し、共有しやすいよう個別でファイリングしている。また、課題をケア会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況や希望に応じて入退去の引っ越しの手伝いをしたり、家族が遠方な場合には地域包括支援センターと連携して区役所や金融機関の手続き等、可能な範囲で柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ボランティアのよる教室や地域の老人会・保育園と交流しながらの畑仕事を楽しみとなっているが、コロナ禍により現在実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内診療所による月2回の内科任診以外にも、必要時に医師へ連絡相談し、指示を受け対応している。診療所には皮膚科もあり、適切な医療を受けやすい。利用者や家族の希望に合わせ、法人外の医療も受けられるよう支援しており、必要に応じて紹介状を用意する等、連携をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。宅直看護師以外にも、法人内診療所の看護師とも連携をとっており、医師への情報共有や支援が受けやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況などを詳しく伝えている。立ち会えない場合は、電話連絡で状況確認と情報提供を行い、早期退院に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で「重度化・看取り介護に関する指針」を提示し、現時点での意向の確認を行っている。身体の状態変化に応じて早い段階から医師や家族と話し合い、終末期に入る段階で再度意向確認を行い、付き添える環境を備えたり、希望に沿った介護計画を作り、本人が穏やかに最期まで過ごす事が		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送等、速やかに対応できるよう、利用者情報を月1回更新し、法人内診療所と共有している。急変が予測される利用者については、事前に医師から指示をもらい、職員間で共有し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施しており、スプリンクラーや自動火災通報装置の説明も行っている。他法人と協定を結ぶ等、法人全体として大規模災害に備えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に注意している。また、何かをしてくださった際には必ずお礼を伝えるよう心がけている。利用者個々に合わせて同性介助をしたり、本人が一人で着替えがしやすいようセッティングを工夫したりしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中でも本人の希望を聞くことができるため、利用者との会話を大切にしている。本人の思いや希望を表現しやすいよう傾聴に努め、認知症が進行した方や失語症の方には選択肢を出す等、表現しやすい対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のレベルや嗜好に合わせたレクリエーションを提供したり、やりたい内容や希望に応じて施設の日課や時間をずらす等、柔軟に対応している。屋外で過ごしたい方には所在確認や見守りを行い、危険のない範囲で屋外で過ごしていただいたり、本人が納得できるまで職員も草取りに付き添う等]		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容出張サービスでは、本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人・家族の希望で日常的に化粧水・乳液を使用したり、おしゃれ好きな方には誕生日に装飾品をプレゼントしたりと、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあったかたちで食事の準備や片付けに参加していただいている。利用者の希望に合わせてパン食や洋食、麺類を提供したり、バーベキューを楽しんでいただいている。敷地内の野菜や果物の収穫から調理までを利用者と一緒に楽しむ事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業務委託元の管理栄養士が考え、バランス良い食事を提供している。日々の食事・水分摂取量・様子を確認し、状態の変化に応じて食形態を見直している。食が進まない方には、口当たりの良い物やお好きな物を家族と相談・協力して用意し、柔軟に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士の来館があり、口腔内のチェックやブラッシング指導を受けている。治療が必要な場合でも、可能な限り訪問診療で対応している。毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいた後、職員が義歯や口腔内の仕上げ磨きを行っている。歯間ブラシをすすめたりと、本人の状態		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で最終排泄時間を確認しながらトイレへお誘いする等、時間に固執せず、個々に合わせた対応を行っている。前年度より自立支援介護を実践しており、自然排便を促す取り組みや、紙パンツから布パンツへ変更する等の個々に合わせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立支援介護の一環として、水分摂取と歩行機会を確保し、チェック表に記録しながら自然排便に向けての取り組みを行っている。乳製品や果物、食物繊維を摂っていただいたり、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じて、入浴日や時間を変更したり、同性介助による対応を行っている。好みのシャンプーや洗顔を使用していただき、できる限り希望に添えるよう支援している。入浴剤を数種類用意して本人に選んでいただいたり、入浴嫌いな方には散歩等で気分転換してからお誘いする等、入浴が楽しめる個々の生活習慣や、体調・気分によって休憩・就寝していただいている。室温や照明の調整他、アロマスプレーや芳香剤を活用したり、希望に応じて湯たんぽを用意したりと、気持ちよく眠れるよう支援している。夜間不眠の方には外気浴や日光浴を行う等、日中の活動量増加に努め、自然な睡眠の促しに努む。入浴時には薬剤師が付き添い、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には、理由を必ず記録に残し、職員間で共有している。経過を確認後、医師への報告を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	中庭で野菜等を育て、役割として水やりをしていただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。裁縫や工作等、一人ひとりの力を活かした活動を行ったり、タブレットで趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	中庭で野菜等を育て、役割として水やりをしていただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。裁縫や工作等、一人ひとりの力を活かした活動を行ったり、タブレットで趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭で野菜等を育て、役割として水やりをしていただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。裁縫や工作等、一人ひとりの力を活かした活動を行ったり、タブレットで趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により商業施設や遠方への外出はできていないが、浜名湖へドライブへ出かけたり、バラ園や桜見物に出かけたりと、可能な範囲で車で出かけている。法人内の敷地が広いので、敷地内の散歩は日常的に行えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、現金を持っていないと不安な方には、家族に了承を得てお財布を持っていたりしている。お金を使いたいという思いもあり、敷地内の自動販売機で飲み物を買いたいと希望があった際には都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・書中見舞いの発送他、キーパーソン以外からの手紙のやり取りを支援したり、電話の取り次ぎをしている。希望に応じて固定電話や携帯電話を持参していただいております。好きな時に電話ができるよう支援している。コロナ禍で開始したテレビ電話での面会も継続しており、遠方で来館できない家族に喜んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回リビングの室温・湿度を確認し、空調や外気の取り込み等調整している。日々の換気をしっかりと行い、不快な臭いや感染予防に繋がっている。前年度、今年度と3ユニットの浴室を全面改修し、足元の冷えが改善されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう、日頃から配慮している。廊下・玄関・玄関先にベンチやソファを設置しており、おもしろい場所で過ごしやすいよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具はできるだけ使い慣れた馴染みの物を持参していただいている。また、家族に相談してアルバム写真や好みの室内装飾品等を置いていただき、自宅に近い居住空間をつくるよう努めている。ベッドを使用していなかった方には、入所後も床に布団を敷いて休んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できる環境であるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を見ながら必要な時に手助けにうかがえる環境となっている。トイレの広さも一般的なものと、車椅子対応のものもあり、本人のレベルに応じて使い分けてい		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2277100588		
法人名	社会福祉法人慶成会		
事業所名	グループホーム花みずき(幸館)		
所在地	静岡県浜松市西区大山町2882番地		
自己評価作成日	令和4年10月7日	評価結果市町村受理日	令和4年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2277100588-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな広い敷地にゆったりと配置された3棟の平屋造りの建物です。ご利用者が自由にのびのびと暮らしていただけるよう、玄関は夜間帯を除き常に開錠されています。コロナ禍により敷地内の畑を利用した地域交流は難しくなりましたが、芋掘りや焼き芋を楽しむ等、立地環境の利点を活かした取り組みを続けています。また、敷地内で収穫した梅や無花果でおやつ作りをしたりと、食べ物や風景でも季節が感じられます。前年度からは自立支援介護の研修に職員が順次参加し、水分摂取量や運動量の見直し、介助方法の見直しを行っています。自然排便を促す等、その方の生活がより自立し充実したものとなるよう、新たな取り組みを開始しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎月発行の「花みずき」には、地域の桜まつりで花のつぼみを初めてかのようにそっと握ってみる様子や、敷地内の地蔵を拝む姿、クラフトでつくった鯉のぼりのうろこが我ながら見事だと悦んでいる表情、男性は菜園の茄子を大事そうに収穫し、女性陣は節句のちらし寿司を「私桶を持つ人」「私混ぜる人」と協働で調理してetc.と、衛生管理を計らいつつもコロナ禍とは無縁で穏やかな暮らしが此処にはあります。中には重度化に進みつつある利用者もいますが、昨年度より「水分・排泄・運動へ」と重点的に取組むことで、認知症の症状を維持・改善へと促す自立支援を進めており、夜間の便失禁が減るなどの効果も現れ、職員の励みにもなっています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基に行動指針をクレドとして全職員へ配布し、入職時に研修を行っている。会議前のクレドの唱和と、クレドの内容を毎月目標にかかげ、理念の共有と理解を深めている。また、人事考課制度の行動評価表はクレドの内容が中心となっており、職員一人ひとりの実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により今年度も小中学生や老人会との定期交流は中止となってしまった。地域包括主催の介護教室へ利用者と一緒に参加をする予定があるが、日程が延期となり現在調整中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や職場体験の受け入れはコロナ禍により現在実施できていないが、医師会からの依頼で視察の対応等させていただいた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により引き続き書面開催を継続している。利用者の入退去・稼働率を含めた定期資料他、苦情や事故の件数、職員の入退職も含め報告を行っている。新たに取り組み始めた自立支援介護の資料を添付したり、施設内で実施した研修内容を紹介したりもしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、生活保護者の受け入れのため必要に応じて社会福祉課と連携をとっている。また、地域包括支援センターと連携しながら、利用者家族の経過を見守る等、情報共有を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で委員会を設置している。法人による入職時の研修他、事業所内ではリモート研修の実施とケア会議での伝達研修を行っている。議事録に不適切ケアや身体拘束の事例を掲載し、意識向上に努めている。各ユニットで不適切ケアはなかったかの見直しを行い、改善に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、事業所内でリモート研修を行ったり、個人ワークで虐待事例について調べる等、虐待防止への意識を共有し、防止に努めている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が複数いるため、日々の支援を通じて学びを得ている。地域包括支援センターや家族と相談し、必要性のある方の申立ての手伝いもしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には文章を確認しながら必ず口頭説明を行い、質問や不安点をお聞きしている。また、制度や利用料金の内容が変更になる際には、その都度案内を送付し、理解と必要に応じた同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により、家族の来館制限を継続しているが、利用者の状態の変化やケアプラン更新時には必ず電話連絡で説明を行い、意見や要望を聞くことができている。連絡方法や時間帯等も家族の要望に合わせて可能な限り対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はリーダー会議を通じて現場の把握に努めると共に、アマーバ会議や施設連絡会議で代表者や他部署へ意見や提案を伝える機会を設けている。事業所運営についての部門会議を定期的で開催し、月間目標を職員主体で設定する等、職員が提案する場を定期的に設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課・面談を実施し、次年度の昇給率に反映されている。年1回の職員意向調査を実施する事で職場環境・条件の整備に努めている。人事考課の面談内容も、各職員が目標を持って業務に取り組める内容となっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で新規採用職員研修が実施されており、入職後半年を目途にフォローアップ研修も行っている。既存職員へもリモート研修受けられるよう整備されている。人事考課面談の際に、個々にあった外部研修をすすめたり、法人内の研修参加をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により法人外同業者の訪問の機会はないが、書面で運営推進会議資料送付を継続している。法人内の研修参加により、他事業所と意見交換を行いながら自立支援介護をすすめるなど、サービスの質向上に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が遠方在住で事前面談ができないケースもあったが、入所前には本人との面談を実施している。本人への聞き取りが困難な場合には、家族や利用中の介護事業所から詳しく聞き取りを行い、本人の様子や言動に気を配りながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込の段階での状況確認他、入居契約の前には再度家族に来館してもらい、近況の確認を行っている。入居後の生活についての不安や要望を含め、対応可能な部分や対応が難しい部分を説明しながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の管理者が月1回集まり、入居相談があった方に対して必要なサービス利用ができるよう、話し合いの場を設けている。また、必要に応じて地域包括支援センターへ相談したりと、サービス提供がスムーズに行えるよう、常に情報共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に家事を行ったり、草取りをしたりと、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。何かをして下さった後には必ずお礼を伝え、共に生活させていただいているという意識を忘れないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会制限を設けているが、窓越し面会やテレビ電話での対応を行っている。必要に応じて電話やFAX、メール連絡で最近の様子や健康状態を報告している。連絡を密に行う事で、相談しやすい環境づくりを心がけ、共に利用者を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により以前のように外出や外泊を自由にしていただけないが、暑中見舞いや年賀状のやりとりを継続している。キーパーソン以外からの電話の取り次ぎや面会対応、手紙のやりとりの支援も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染の利用者同士がゆっくりと話せるよう、ベンチやソファの配置をかえ、心置きなく過ごせるようにしている。また、工作や家事を通じて利用者同士が自然と関わり合える環境づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設へ異動した際には、経過確認とケア方法の伝達を必要に応じて随時行っている。家族から相談のあった際にも都度対応し、退去時の清算明細を送付する際には、お礼の言葉を一筆添えて送付するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動から利用者が希望している生活や要望を把握するように努めている。利用者の希望に応じた手作りの食事を用意したり、家族と相談して嗜好品を用意したりしている。また、本人の希望を介護計画に反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や担当ケアマネージャー、入居前に利用していたサービス事業所への聞き取りを行い、生活歴や馴染みの暮らし・生活環境の把握に努めている。可能であれば自宅へ出向き、居住環境を把握したり、入居前の日記や介護記録、家族のメモ等を提供していただき、経過の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックで身体の状態を記録している。日常のケア記録、職員間の申し送りや情報交換により、常に状況把握に努めている。利用者ごとの申し送りファイルは生活面・医療面と内容によって色分けを行い、経過も含め把握しやすいよう工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話やモニタリングの際に本人の意向を確認している。ケア会議で課題を話し合い、必要に応じて医療機関や家族と相談をしたうえで、その内容を介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者について新たに気づいた事や、行動の変化を要連絡事項として記録し、共有しやすいよう個別でファイリングしている。また、課題をケア会議で話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況や希望に応じて入退去の引っ越しの手伝いをしたり、家族が遠方な場合には地域包括支援センターと連携して区役所や金融機関の手続き等、可能な範囲で柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ボランティアのよる教室や地域の老人会・保育園と交流しながらの畑仕事が楽しみとなっているが、コロナ禍により現在実施できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内診療所による月2回の内科任診以外にも、必要時に医師へ連絡相談し、指示を受け対応している。診療所には皮膚科もあり、適切な医療を受けやすい。利用者や家族の希望に合わせ、法人外の医療も受けられるよう支援しており、必要に応じて紹介状を用意する等、連携をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間オンコール体制をとっており、必要に応じて相談・対応が可能である。宅直看護師以外にも、法人内診療所の看護師とも連携をとっており、医師への情報共有や支援が受けやすい環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には職員が病棟まで立ち合い、医療機関へ生活状況などを詳しく伝えている。立ち会えない場合は、電話連絡で状況確認と情報提供を行い、早期退院に務めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で「重度化・看取り介護に関する指針」を提示し、現時点での意向の確認を行っている。身体の状態変化に応じて早い段階から医師や家族と話し合い、終末期に入る段階で再度意向確認を行い、付き添える環境を備えたり、希望に沿った介護計画を作り、本人が穏やかに最期まで過ごす事が		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送等、速やかに対応できるよう、利用者情報を月1回更新し、法人内診療所と共有している。急変が予測される利用者については、事前に医師から指示をもらい、職員間で共有し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新規採用職員を中心に、夜間火災を想定した避難訓練を実施しており、スプリンクラーや自動火災通報装置の説明も行っている。他法人と協定を結ぶ等、法人全体として大規模災害に備えている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や生活歴を理解し、言葉かけや対応に注意している。また、何かをしてくださった際には必ずお礼を伝えるよう心がけている。利用者個々に合わせて同性介助をしたり、本人が一人で着替えがしやすいようセッティングを工夫したりしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中でも本人の希望を聞くことができるため、利用者との会話を大切にしている。本人の思いや希望を表現しやすいよう傾聴に努め、認知症が進行した方や失語症の方には選択肢を出す等、表現しやすい対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のレベルや嗜好に合わせたレクリエーションを提供したり、やりたい内容や希望に応じて施設の日課や時間をずらす等、柔軟に対応している。屋外で過ごしたい方には所在確認や見守りを行い、危険のない範囲で屋外で過ごしていただいたり、本人が納得できるまで職員も草取りに付き添う等]		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理美容出張サービスでは、本人の希望や好みを伝えられるよう支援している。また、本人・家族の希望で日常的に化粧水・乳液を使用したり、おしゃれ好きな方には誕生日に装飾品をプレゼントしたりと、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりにあったかたちで食事の準備や片付けに参加していただいている。利用者の希望に合わせてパン食や洋食、麺類を提供したり、バーベキューを楽しんでいただいている。敷地内の野菜や果物の収穫から調理までを利用者と一緒に楽しむ事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は業務委託元の管理栄養士が考え、バランス良い食事を提供している。日々の食事・水分摂取量・様子を確認し、状態の変化に応じて食形態を見直している。食が進まない方には、口当たりの良い物やお好きな物を家族と相談・協力して用意し、柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士の来館があり、口腔内のチェックやブラッシング指導を受けている。治療が必要な場合でも、可能な限り訪問診療で対応している。毎食後の口腔ケアでは、まずは自身で歯磨きをしていただいた後、職員が義歯や口腔内の仕上げ磨きを行っている。歯間ブラシをすすめたりと、本人の状態		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で最終排泄時間を確認しながらトイレへお誘いする等、時間に固執せず、個々に合わせた対応を行っている。前年度より自立支援介護を実践しており、自然排便を促す取り組みや、紙パンツから布パンツへ変更する等の個々に合わせた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自立支援介護の一環として、水分摂取と歩行機会を確保し、チェック表に記録しながら自然排便に向けての取り組みを行っている。乳製品や果物、食物繊維を摂っていただいたり、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気分に応じて、入浴日や時間を変更したり、同性介助による対応を行っている。好みのシャンプーや洗顔を使用していただき、できる限り希望に添えるよう支援している。入浴剤を数種類用意して本人に選んでいただいたり、入浴嫌いな方には散歩等で気分転換してからお誘いする等、入浴が楽しめる。個々の生活習慣や、体調・気分によって休憩・就寝していただいている。室温や照明の調整他、アロマスプレーや芳香剤を活用したり、希望に応じて湯たんぽを用意したりと、気持ちよく眠れるよう支援している。夜間不眠の方には外気浴や日光浴を行う等、日中の活動量増加に努め、自然な睡眠の促しに努む。在宅時には薬剤師が付き添い、一人ひとりに合った内服薬の調整と配薬管理を行っている。職員は配薬カードを活用して処方薬を把握し、誤薬のないよう努めている。内服薬を変更した際には、理由を必ず記録に残し、職員間で共有している。経過を確認後、医師への報告を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	中庭で野菜等を育て、役割として水やりをしていただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。裁縫や工作等、一人ひとりの力を活かした活動を行ったり、タブレットで趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	中庭で野菜等を育て、役割として水やりをしていただいたり、成長と収穫、食すまでが楽しみとなっている。裁縫や工作等、一人ひとりの力を活かした活動を行ったり、タブレットで趣味の競艇を楽しんでいただく事もある。自宅から持参した日本酒で晩酌をしたりと、日々の楽しみを継続できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍により商業施設や遠方への外出はできていないが、浜名湖へドライブへ出かけたり、バラ園や桜見物に出かけたりと、可能な範囲で車で出かけている。法人内の敷地が広いので、敷地内の散歩は日常的に行えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により商業施設や遠方への外出はできていないが、浜名湖へドライブへ出かけたり、バラ園や桜見物に出かけたりと、可能な範囲で車で出かけている。法人内の敷地が広いので、敷地内の散歩は日常的に行えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自己管理が難しく、使用する機会があまりないが、現金を持っていないと不安な方には、家族に了承を得てお財布を持っていたりしている。お金を使いたいという思いもあり、敷地内の自動販売機で飲み物を買いたいと希望があった際には都度対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・書中見舞いの発送他、キーパーソン以外からの手紙のやり取りを支援したり、電話の取り次ぎをしている。希望に応じて固定電話や携帯電話を持参していただいております。好きな時に電話ができるよう支援している。コロナ禍で開始したテレビ電話での面会も継続しており、遠方で来館できない家族に喜んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日3回リビングの室温・湿度を確認し、空調や外気の取り込み等調整している。日々の換気をしっかりと行い、不快な臭いや感染予防に繋がっている。前年度、今年度と3ユニットの浴室を全面改修し、足元の冷えが改善されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が隣席で過ごせるよう、日頃から配慮している。廊下・玄関・玄関先にベンチやソファを設置しており、おもしろい場所で過ごしやすいよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具はできるだけ使い慣れた馴染みの物を持参していただいている。また、家族に相談してアルバム写真や好みの室内装飾品を置いていただき、自宅に近い居住空間をつくるよう努めている。ベッドを使用していなかった方には、入所後も床に布団を敷いて休んでもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、中庭を挟んで反対側の廊下やリビングが目視できる環境であるため、職員が常時傍で見守るのではなく、本人の様子を見ながら必要な時に手助けにうかがえる環境となっている。トイレの広さも一般的なものと、車椅子対応のものもあり、本人のレベルに応じて使い分けてい		